



01. 本殿外観
02. 本殿見上図
03. 本殿桁行断面図
04. 本殿正面図

春日大社

井桁組の土台に残る可搬性の形跡

▶ 結界に守られた本殿

春日大社は神山とされてきた御蓋山の西麓に境内を構えている。社伝によれば創建は768年(神護景雲2)である。

本社は四方に複廊形式の廻廊や築地塀を廻らす。本殿は境内の最も高い北東に位置し、瑞垣(みずがき)に囲まれて同規模同形式の4棟が軒を接して建ち並ぶ。本殿各棟の間は後方を隠す御間塀(おあいべい)でつながれており、その上の屋根の谷間には雨水を受ける大樋が架けられている。本殿はこうした入れ子状の結界に守られて存在する。

▶ 一時的な依代としての社殿

本殿各棟は方一間と小さく、切妻屋根で妻入の身舎正面に向拝が付く。この形式を春日造と呼ぶ。身舎は密に並べられた繫垂木

(しげだるき)であるのに対して、正面庇は間隔が大きい疎垂木(まばらだるき)である。

圓成寺(奈良市)には鎌倉時代の春日造り現存最古の遺構である春日堂・白山堂が残るが、これと比較してもかつての形式をよく残している。元々、社殿は神の一時的な依代であり、必要に応じて移動できたとされる。神明造と大社造が持つ心御柱は固定された掘立柱であるのに対して、春日大社は心御柱を持たず井桁組の土台に柱が立てられており、可搬性を担保している。

▶ 屋根と正面意匠のバランス

春日造は、屋根に反りをもつことも神明造や大社造とは異なる。正面妻は身舎屋根より深い反りをつくるために、破風板の半ばを下げるが、すると反りを強調

した破風面と屋根面の曲線にギャップが生じる。その調整しるが箕甲(みのこう)である。箕甲は屋根面から破風側にかけて曲げおろされて反り屋根と破風面をなめらかにつなぎ、屋根の優美な曲線を際立たせている。

この本殿と同規模・同形式の若宮神社本殿が回廊の南方に建ち、ここでは春日造の屋根の姿をよく見ることができる。

住所：奈良県奈良市春日野160
創建：768年
構造種別：木造
直近式年造替：2015～2016年
開門時間：6:30～17:30(3月～10月)、7:00～17:00(11月～2月)
拝観料：500円(本殿前特別拝拝)